

パグウォッシュ会議について

理学部物性学科 ◆西川 恭治



▲前回開催の会議風景

広島・長崎の被爆五十周年の今夏、「科学と世界の諸問題に関する第四十五回パグウォッシュ会議」が、広島で開催されることになった。

パグウォッシュ会議について

パグウォッシュ会議は、今から四十年前の一九五五年に発表されたラッセル・アインシュタイン宣言にちなんで、一九五七年以来、毎年世界各地で開催されてきている国際会議である。

して解決するために討議を重ね、究極的な目標を見定めるとともに、多くの現実的で重要な提言をしてきた。提言の中には、核実験停止協定、核不拡散条約、非核兵器地帯、生物兵器・化学兵器禁止条約、ヨーロッパの安全保障、発展途上国の諸問題、環境問題、などその後の国際社会の中で採択され、実現してきたものを含んでいる。

パグウォッシュ会議という名称は、第一回会議が一九五七年カナダ東海岸のパグウォッシュ村で開催されたことにちなんで名づけられた。一九五七年の第一回会議には、世界の代表的自然科学者・社会学者二十二名が参加し、日本からはノーベル賞受賞者の湯川秀樹教授・朝永振一郎教授と立教大学の小川岩雄助教授(当時)が出席した。

ラッセル・アインシュタイン宣言

この会議の基礎となったラッセル・アインシュタイン宣言は、一九五五年、哲学者のラッセルと物理学者のアインシュタイン・湯川秀樹などノーベル賞受賞者を中心とする十一名が、世界の科学者に「核兵器の発達の結果生じた人類存続への危機に対して」警告を発し、「いかなる紛争も平和的に解決する方法を見出すように」と呼び掛けたものである。

パグウォッシュ会議の今日的意義

冷戦が終結した今日でも、多くの核兵器が存在し、核実験も行われている。核兵器以外にも、人類の存続を脅かす新たな諸問題が発生している。

このような時にあたり、今後の人類の発展のためには、核兵器の廃絶と紛争解決の手段としての戦争の放棄を現実のものにするため、さらなる努力が求められている。会議の基礎となったラッセル・アインシュタイン宣言の精神は、今でも立派に生きており、その精神に基づいた世界の科学者の協力による努力が、今日ますます重要になってきている。

広島開催の意義

かねてから、日本で年次会議を開催してもらいたいという国際的要望が強かったが、これまでわが国では、具体的テーマについての小規模のシンポジウムを一九七五年と一九八九年の二回開催するにとどまっていた。今年、被爆五十周年、国連発足五十周年、ラッセル・アインシュタイン宣言四十周年にあたり、今後の激動する世界の進路を見極めるためにも、ぜひ原点の広島で年次会議を開催したい



広島での会議の概要

今回の会議は、「核兵器廃絶の世界を目指して」を主題に、七月二十四日(月)から二十九日(土)まで、広島国際会議場で開催され、全体会議とワーキンググループとから成り、以下のプログラムで行われる。

- 七月二十四日(月)
9時 開会式
11時 全体会議
「広島・長崎50周年」(加藤周一)
午後:ワーキンググループ
二十五日(火)
9時 全体会議 事務総長報告
11時 ワーキンググループ
18時30分 市民との対話
二十六日(水)
9時 全体会議「国連50周年」
11時 全体会議
「より公平な世界を目指して」
午後:ワーキンググループ
二十七日(木)

学ぶ側から見た英語教育

庶務部国際交流課長 ◆太田 恵雄

前号の投稿記事を読んで、大学人は、高校教育の実態についての認識が不十分だという思いを強くした。

英語教育のあり方に関する教育関係者への風当たりは強い。それは、「How are you?と聞かれてこそI'm fine, thank you.と出さない自分の英語運用力の無さに対するどこかさの裏返しでもある。六年以上も勉強してきて基本的な挨拶もできない英語教育とは何か。文部省が定める教育課程編成の基準である学習指導要領において、直近の改訂の際に、外国語では、中学校、高等学校を通じて、国際化の進展に対応し国際社会に生きる資質として、外国語によるコミュニケーション能力の育成を意図して改善が図られた。特に高校では、「聞く」「話す」という技能に重点を置いた「オーラル・コミュニケーションA、B、C」という新しい科目を設定している。

コミュニケーションという片仮名の科目名がつけられたこと自体、指導要領の歴史上画期的なことなのである。すでに教科書も変わっている。今の中学一年生は、「This is a pen.」ではなく、「Nice to meet you.」から入るのである。また、中・高の現場では、生きた外国語を学ぶという趣旨から、英語圏から大学卒業した外国人青年を招致して、英語指導の補助に当たる「JETプログラム」が実施されている。全国で五千人を超える外国人青年(AET:アシスタント・イングリッシュ・ティーチャー)が雇用され教壇に立っている。その他にも英語担当教員の海外研修、ILの普及など、中等教育では外国語教育の改善にさまざまな努力が払われている。

「オーラル・コミュニケーション」が迷惑科目だと言う認識は、こうした努力に水をさすものである。迷惑科目になっている犯人、それは実

会議の組織・準備・参加者等

- パグウォッシュ会議の会長はイギリスの物理学者ロートブラット教授で、会議は、ローマに事務局を持つパグウォッシュ評議会(議長はポーランドのナレツチ教授、事務総長はイタリアのカロジエロ教授)の主催で開かれる。日本からは、慶応義塾大学の小沼通二教授が評議員を務めている。

- 一、核兵器のない世界へのアジェンダ
二、拡散危険性の削減
三、兵器の輸出入と国際移転の監視・管理削減
四、全世界の統治
五、アジア太平洋地域の安全保障
六、エネルギー・環境・開発の相互関連の六つのテーマで開かれる。

二十九日(土)

9時 全体会議「ラッセル・アインシュタイン宣言50周年」
12時30分 閉会式

全体会議は、二十八日十一時以降を除き、全て傍聴席を設けて、科学者・市民・報道関係者に公開し、同時通訳をつける。二十五日夕方の市民との対話でも同時通訳をつけるので、ご関心のある方の積極的参加を希望している。ワーキンググループは、非公開で、

二十八日(金)

9時 ワーキンググループ
11時 全体会議「核兵器の効果」(飯島宗一)

ワーキンググループ報告と討論
9時 全体会議「ラッセル・アインシュタイン宣言50周年」
12時30分 閉会式
全体会議は、二十八日十一時以降を除き、全て傍聴席を設けて、科学者・市民・報道関係者に公開し、同時通訳をつける。二十五日夕方の市民との対話でも同時通訳をつけるので、ご関心のある方の積極的参加を希望している。ワーキンググループは、非公開で、

プロフィール

- ◆専門はプラズマ物理学(理論)
◆理学部物性学科教授
◆第四十五回パグウォッシュ会議 広島委員会委員長
◆かるた六段、全日本かるた協会理事。広島県かるた協会会長